

日本交通学会 2011年大会 概要

2011年10月15日(土)・16日(日)の2日間、神戸大学六甲台第一キャンパスにおいて、70周年記念国際シンポジウム、総会・懇親会、第70回研究報告会が開催されました。

■70周年記念 国際シンポジウム 「持続可能社会における交通政策」

日本交通学会創立70周年を記念して、日本のみならず、交通政策の先進地域であるヨーロッパと北米地域から研究者を招き、「持続可能社会における交通政策」をテーマに、よりグローバルな視点から、今後の交通政策のあり方を検討するとともに、交通研究者の果たすべき役割について考える国際シンポジウムを出光佐三記念六甲台講堂にて開催しました。

まず午前中は、米ジョージ・メイソン大学のケネス・バトン教授より「米国交通政策の過去・現在・未来～公共選択論の展望」、英リーズ大学のクリス・ナッシュ教授より「EU交通政策と持続可能社会～鉄道の役割」、一橋大学の山内弘隆教授より「持続可能社会における交通政策」の各報告があり、午後からは、正司健一神戸大学副学長をモデレーターとして、3氏とともにパネルディスカッションを行いました。今回は会員以外にも門戸を広げ、一般来場者48名（招待・報道を除き有料）を含む総勢180名の参加者により、質疑も含めて白熱した議論が交わされ、予定時間をオーバーするほどの盛り上がりを見せました。



ケネス・バトン教授



クリス・ナッシュ教授



山内弘隆教授



パネルディスカッションの様子（左端は正司健一副学長）

■ 総会

続く総会では、前年度の会務および決算の報告、今年度の予算の承認に加え、前期 12 名、後期 9 名の新入会員の紹介、国際シンポジウムと並ぶ 70 周年記念事業である『交通経済ハンドブック』刊行の報告、次回開催予定校(日本大学)及び日程候補(案)の紹介等が行われました。



総会の様子

(左から根本常務理事、堀常務理事、塩見副会長、宮下会長、松澤副会長、正司常務理事)

また、日本交通学会賞が発表され、宮下会長から受賞論文の著者 3 会員(酒井裕規、正司健一、三古展弘の各氏)に賞状と副賞金が授与されました。

日本交通学会 70 周年記



酒井裕規会員



正司健一会員



三古展弘会員

さらに、本年は理事選挙の年にあたるため、選挙結果の報告、また新たな選挙選出理事の互選により決定した次期任期の執行部(会長:塩見英治氏、副会長:中条潮氏、正司健一氏、常務理事:堀雅通氏、根本敏則氏、西村弘氏)が発表されました。

■ 懇親会

夜には瀧川記念館に場所をかえて懇親会も開催され、会員のみならず、国際シンポジウムにお招きしたケネス・バトン教授、クリス・ナッシュ教授も交え、和やかかつ賑やかな雰囲気の中、100名近い参加者が相互に親睦を深めることができました。



■ 研究報告会

翌16日は、経営学部・経済学部本館にて、研究報告会が開催されました。142名の会員が参加し、3会場にわかれ、6つのセッション(「インフラ」4件、「道路」4件、「都市交通・観光」4件、「鉄道」5件、「航空」6件、「地域交通」5件)にて、合計27件の研究報告が行われました。

こうして、2日間の期間中、総勢216名の方が参加され、すべての行事が滞りなく終了いたしました。

終わりに、国際シンポジウム、総会、懇親会、研究報告会のみならず、前日に大阪にて開催された理事会・評議員会も含めて、準備、運営に多大なるご協力、ご尽力を頂きました神戸大学の正司健一先生、水谷文俊先生、村上英樹先生、三古展弘先生をはじめとする同大学の各先生、事務スタッフおよび学生の皆様、並びに同時通訳をお願いした株式会社サイマル・インターナショナルの皆様に、心から感謝申し上げます。

(事務局記)